

再生可能エネルギーを日本で、ここ大洲でどう生かすか

講演会 自然エネルギーと地域再生

(無料 / 手話・英語通訳あり)

講師



トーマス コーベリエル さん 自然エネルギー財団理事長

スウェーデン・ルンド大学の産業環境経済国際研究所の教授などを歴任。現在、チャルマース工科大学・産業エネルギー政策の教授。産業界では、ヴァッテンフォール社外取締役、欧州企業 InnEnergy の産業育成エグゼクティブを務める。政治面では、スウェーデンおよび欧州の環境市民組織やエネルギー・環境関連法案を策定するスウェーデン政府委員会のメンバーとして活動。スウェーデンエネルギー庁長官 (08-11)、スウェーデン政府の気候変動委員会委員 (18-) を務める。国際経験も豊富で現在、中国の環境と開発に関する国際協力委員会委員。

講師



大林 ミカ さん 自然エネルギー財団事業局長

2011年自然エネルギー財団の設立に参加。財団設立以前は、国際再生可能エネルギー機関 (IRENA) プロジェクトマネージャーを務める。原子力資料情報室でエネルギー・アジア原子力担当 (92-99)、環境エネルギー政策研究所副所長 (00-08)、駐日英国大使館気候変動政策アドバイザー (08-09)、などを歴任。2017年国際太陽エネルギー学会 (ISES) よりグローバル・リーダーシップ賞を受賞。

9月1日(日)13:30～(開場 13:00)
大洲市総合福祉センター

主催 / 大洲再エネ講演会実行委員会

後援 / 大洲市 JA 愛媛たいき 大洲市森林組合

大洲市ボランティア連絡協議会 大洲の環境をよくする連絡協議会

ウラ面もご覧下さい

再生可能エネルギー

太陽光

太陽光発電
大洲市



風力

風力発電
伊方町



水力

小水力発電
奈良県下北山村



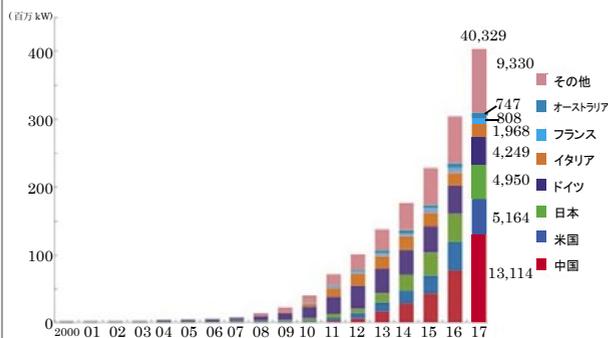
バイオマス

木質チップボイラー
徳島県佐那河内村



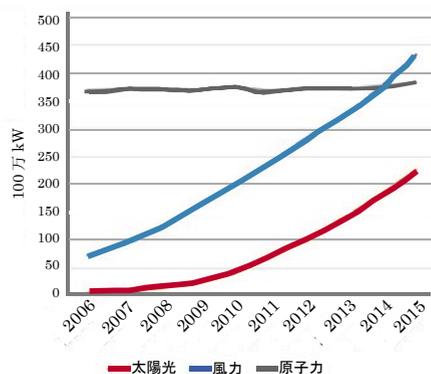
世界で再生可能エネルギーが急成長

世界の太陽光発電の導入量(累積)の推移



出典:2019 エネルギー白書

2015年 世界の風力発電の設備容量は原発を超えた



出典:自然エネルギー財団

「再生可能エネルギー講演会」のご案内

再生可能エネルギー(以下、再エネ)は、無尽蔵の自然エネルギーで、近年その活用技術が急速に進歩し、次世代のクリーンなエネルギーとして注目されています。異常気象による自然災害や農業被害の原因として地球の温暖化があげられるなか、CO2などの温室効果ガスを排出しない再エネの普及が全世界で急速進んでいます。

再エネの特徴は、地域に普遍的に存在していることです。再エネは、地域資源を富に変え、その富を流出させず循環させることによって地域を豊かにします。

大洲市には、太陽光・木質バイオマス・小水力・風力など未利用の再エネが豊富に存在します。

こうした再エネ資源を活用した地域再生の取り組みが、海外では早くから行われていましたが、わが国の自治体でもいま活発化しています。

私たちは、大洲市が高齢化や人口流出によって年ごとに寂れていくことに危機感を持っていましたが、今年の豪雨災害によってその流れに拍車がかかるのではないかと心配しています。

私たちは、災害復興とあわせて、再エネを活用した地域の再生を図ることが今こそ求められていると考えています。

そこで、再エネ活用の機運を盛り上げるために、「再生可能エネルギー講演会」の開催を計画しました。講演会では、再エネの現状や地域再生の実例などを学べるよう、講師をお願いしています。

大洲市民はいうまでもなく行政関係者や産業・経済団体など幅広い層のみなさんにご参加いただき、再エネ活用の機運を盛り上げたいと考えています。

令和1(2019)年夏

大洲再エネ講演会実行委員会
(事務局 080-1525-8306)